

## 11-4

# 中学校 特別活動（学校行事） 指導事例 「地域の一員として参加する学校行事」

### 【目標】

学校行事をとおして、望ましい人間関係を形成し、集団への所属観や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

### 【目指す子どもの姿】

地域の協力を得ながら、奉仕的活動や避難訓練を自主的に取り組むことで、地域の一員として自覚をもち、地域社会に貢献し、協力しようとする姿

## 1 主な活動と「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

主 な 活 動	ポイントになる学びのプロセス
<p style="text-align: center;"><b>ポイント1</b></p> <p><b>学校区での地域清掃活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域でボランティア活動をしている方の講話を聞き、ボランティア活動の意義について理解を深める。</li> <li>・ 生徒会役員等が中心となり、清掃分担の場所やグループ分け等について小学校の児童会と協議する。</li> <li>・ 学校区の小学校、中学校、地域の町内会やボランティア活動をしている方々と協力して清掃活動を実施する。</li> </ul>	<p><b>関心をもつ</b></p>
<p><b>地域と連携した避難訓練</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒や保護者へ、地域の消防団員の方や消防署員の方等の講師を招き、学校や通学地域の実情に照らし合わせた具体的な防災講演会を開催する。</li> <li>・ 地区ごとに災害図上訓練（D I G）を設定し、地域における災害を想定したイメージトレーニングを行って、地域の防災について知り、話し合う。</li> <li>・ 学校だけで行う避難訓練だけでなく、地域への協力を要請し、さらに現実に近いものにしていく。災害が昼間に起こったら、地域の青年や大人は仕事等で自分の地域にいないことを考える。</li> <li>・ 学校区の地区ごとによる集団下校等を実施する。</li> <li>・ 地域において、自分自身に何ができるかを考える。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>ポイント2</b></p> <p><b>情報を収集して、他者の意見を聞いて判断する</b></p>

## 2 政治的教養を育むためのポイント

### ポイント1

#### 事前・事後指導を活用し、地域の一員として協力しようとする態度 育てましょう。

社会奉仕活動を行う場合、社会奉仕やボランティアに関心をもつとともに、自主的に取り組むことが大切です。事前学習では地域でボランティア活動をしている方の講演会などを開催し、「よりよい地域」のために自分たちに何ができるかを生徒自身が考えることで、目的をもって清掃活動に参加することができます。

地域清掃活動では、できる限り地域の方を交えた異年齢の人々とのグループを構成することで、児童・生徒が協力しようとする態度が育つことができ、地域に開かれた学校にしていくことができます。

事後活動では、事前に立てた目標が達成できたか、清掃活動に関する振り返りを行い、日常生活に生かすことが大切です。

### ポイント2

#### 地域住民の一人として、防災について意識しましょう

災害図上訓練（D I G）とは、災害（Disaster）のD、想像力（Imagination）のI、ゲーム（Game）のGの頭文字を取って、名付けられた誰でも行うことができる訓練のことです。また、英語のdig〔動詞〕から「防災意識を掘り返す」「地域を探究する」「災害を理解する」といった意味を込めて、「ディグ」と呼んでいます。

大きな地図を参加者全員で囲み、一緒になって対応策を考えることで、自分たちが住む地域の防災に対する意識が生まれ、地域の防災ネットワークが形成されるという効果があります。

東日本大震災における、いわゆる「釜石の奇跡」と呼ばれる小・中学校における避難行動では、釜石の児童・生徒たちが、「人は『釜石の奇跡』というが、僕たちは『実績』だと思っている」（NHK 『シンサイミライ学校 片田敏孝先生のいのちを守る特別授業』より）と言える児童・生徒の防災意識への定着度は、地域での防災の大切さを教えてくれました。

災害のおこる時間帯においては、小・中学生が地域における大きな力ともなります。その力が地域に求められることとなります。そうした災害時に、力を発揮できるように、普段の学校生活や家庭での生活の日常の生活を振り返るとよいでしょう。

「自分の命を守ること（自助）」「周りの人たちを助けること（共助）」「自治体等ができること（公助）」の視点から防災を考えていくことが大切です。



災害図上訓練（D I G）の様子